

令和七年一月

普賢光明

華嚴宗 普賢光明寺

今月の法話

一、「御霊筆より」 二、「已の神様」

一、御霊筆より 「唯心是空」

私達にとって、これからの世界は試練の修行といっても過言ではありません。あまりにも混沌とする世の中に生き抜くためには心の持ち方と希望を捨てぬことです。希望を心に思い描き、それを努力と縁によって近づこうと励むことでいつの間にか叶うのです。そのためには信じる心が必要なのです。目に見えるものだけを信じる者は孤独になり何事も成就しません。しかし、神仏を信じることのできない人々が多いのです。ここで言う「信じる」とは心の在り方です。信じることのできぬ者は自信がない者が傲慢な者、小心者です。信仰の原点は心の正しさと清浄です。我の強いものは頑固者など言われます。正しいことに頑固なことは良いのですが、ただただ何も知らぬがゆえに頑固になっていく者が多いのです。そして、その者たちはいつの間にか精神を病んでしまうのです。なぜなら、すべてを信じられなくなり孤独になってしまふからです。そのようでは、これからの世の中は生きていくに難しくなっていくでしょう。そこで私達は身近に本当に素晴らしい教えがあることを今一度学んでくださいませ。その中でも最も重要な経文があります。それは私達が普段からお唱えしている「如心偈」なのです。この経文は華嚴經の要点を捉えた短い経文です。私たち華嚴宗のみが唱える経文で、他のお寺でこの経文を唱えていると「何のお経でしょうか」と聞かれることが多いです。その度に如心偈という華嚴經の一節であることを答え、有名な破地獄の話をするのが驚かれます。なぜこの経文が地獄を打ち破る力があるのかと申しますと、実は地獄も私たちが作り出すものの一つであるからなのです。この世界の隣には全く違う異世界が存在していることを聞いたことがありますか。それは死後の世界であったり、佛菩薩や神の世界、そして過去・未来と含まれています。もちろん他の宇宙につながる世界もあります。それらは切れない薄いサララップのような境界で分けられていると思ってください。それを本当の意味で全て受け入れればどこの世界にも行けるのですが、それはかなりハードルが高いです。仏教とどのような関係があるのかと思われましょう。如心偈は私たちの生きていく世界も神仏の世界も他の宇宙も全て私たちの心が作り出すものと言われています。まるで創造主になってもなったようですね。仏は悟りの極地に至り、すべてを知り、いかなる世界をも自由自在になるのです。しかし、凡夫である私達人間は迷い不安を抱え苦しみます。今この瞬間には不安がないという人も必ず何かが突然に来て運命を変えたり、失ったりするものです。そして苦しみながら魂が磨かれてゆくのです。心を豊かにして穏やかなことを想い、楽しい幸せを思えばそのような世界も訪れます。それを作り出すものが心なのです。「唯心是空」とは目に見える、見えないにかかわらず、全てのものは宇宙につながり一つであるとともに、幸せも不幸も自分自身が作り出す世界であることを教えています。私は文面が苦手なのでうまく書けません。これは文字では表すことが難しいのです。ここに信じる心が出てきます。何を戯言を言っているのかと思われるかもしれませんが、私はその体験をして皆さんに見えない世界が見えているのです。昔の人々は誰もが知っていたのではないかと思えます。ゆえに素直に受け入れたことでしょう。現代の人はさほど知識を持たぬのに小さな知識をかざして否定したり、想像すらしなくなってきました。それは情報が多すぎて混乱しているのか、興味が無いのか、恐ろしいのか分かりません。しかし、いずれ近いうちに自分が否定するあらゆることの真実が知れる時が来ます。それまでただ待つのではなく華嚴の教えとの御縁を持つ皆さんはこの如心偈の教えを胸に生きてくださいませ。心も体も清浄となり成仏できます。

今この世には観音様が降臨しています。これはこれから起きる様々な試練に対し人々を救済するために他なりません。心してご本尊様にお祈りくださいませ。すぐそこにおられます。

二、巳の神様

本年は巳年ということで、メディアではお正月から白いへビが取り上げられることも多々ありますね。ここで気をつけていただきたいのは、吉兆の白蛇とはあくまで変異したアルビノの蛇であり、よく取り上げられる白蛇は海外の蛇であって違いは目の色です。白蛇の目は赤いのです。

さて、白蛇は古来より幸運の知らせや、神仏の使いとして祀られてきました。今回はその中でも有名な蛇体の神様についてお話をしましょう。まず、日本において最も有名な蛇神はヤマタノオロチでしょう。その背には木が生えていたというほどの巨体で、クシナダヒメとサノオノミコトの逸話は有名ですね。このように基本的に蛇は悪神として描かれ、出雲国風土記での夜刀神や諏訪のミシャグジなどでは土着の神として知られ、後から来た神や豪族と対峙します。他には奈良の大神神社の御神体である三輪山に祀られた大物主命は本体が黒い蛇身であるという逸話があり卵をお供えします。一方で蛇は三毒(貪瞋癡)を司ることから、仏教にとつて翻って祀ることでもそれらを退ける事ができるとされます。そんな蛇神の中でも福德の御利益を持ち、皆様にとつて身近な蛇神は「宇賀神」でしょう。老翁のお顔に白蛇の体を持つ異形の神で、弁財天と一体となり全国の寺社で祀られ信仰されます。単体で祀られることは少なく、その姿を間近で見られるのは上野にある不忍池の弁天堂の前に安置されている宇賀神像くらいではないでしょうか。この摩訶不思議な神はどこからやってきたのか。よく、農耕を司る宇迦之御魂神と関連があるとされますが、どうも名前以外に共通項はなく、逆に後から同一視されたようです。

まず、妙音弁財天と宇賀弁財天の二体は江の島でも分けて祀られるようにその御利益が異なります。妙音弁財天とは智慧・音楽・技芸などを司り、主に『大日経』に見られます。宇賀弁財天はその御利益が異なるのです。この宇賀弁財天の信仰は十世紀の中頃から書物に登場し、その発祥は比叡山、特に無動寺谷の弁天堂であると推察されています。この弁天堂では浴酒に護摩と現在でも弁天様をご本尊として深く信仰されており、比叡山の中でも特別な位置づけです。宇賀神は観音様の変化ともされ特に如意輪観音と一体とされます。(他にも愛染明王、茶枳尼天、大聖天とも)空王如来より法を授かり、特に貧転福与の力を持つとされ、貧しい衆生を助けることを本願とする神王なのです。經典に曰く、この尊を家で祀る場合は乾(北西)の方向が良いとされます。これはその反対にあたる巽(南東)の方向に三毒の化身である三悪神が住まうとされます人の貧しいことの原因は「飢渴神」「貪慾神」「障礙神」のためであり、宇賀神王はそれらを打ち碎き福德成就するのです。特に「貪慾神」は蝦蟇(蛙)の姿をしており、宇賀神はこの蛙を踏みつけるように描かれます。白蛇と弁財天は別物として捉えられますが、弁財天そのものを蛇身とする信仰もありこれは天河弁財天にみられます。非常に恐ろしい姿で、興福寺などの修験において本尊として用いられたそうです。本年は各地で白蛇や弁財天信仰がブーム起きることでしょう。当山の弁天祭も一層力を入れたいと思います。

宇賀神真言「おん うがや じゃや ぎやらべい そわか」

合掌

南無日光妙法蓮華經

*一月のラッキーカーラー、暗剣殺、五黄殺(一月七日〜二月四日迄)

*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増幕や殊行などを控えた方が良い方位となります。年間通してのラッキーカーラーは録です。

一月のラッキーカーラー 緑 金 黄 暗剣殺 東 五黄殺 西
年間の暗剣殺は北東、五黄殺は南西。歳徳神(吉方位)は西南西やや西(庚)となります。

【お知らせ】

- ① 二月の勉強会の日程 普賢光明寺・二月一日(土) 二日(日) 四日(火) 正午より。
横須賀支部・二月九日(日) 第二日曜日に変更 小田原支部・二月二十三日(日) いずれも午後二時より
- ② 俱利伽羅大龍不動明王初護摩法を一月二十六日(日) 午前十時半、午後二時半より厳修いたします。
御祈願なされた護摩木は必ず法要当日までにお持ちになり、加持を受けることにより厄を落とし運氣を向上させていただきます。なお昨年度の御焚きあげの御札は法要当日からお預かりいたします。護摩札をお申込みされ、法要にはご欠席の場合は勉強会等二月中にはお受け取りになり良い御縁起を受けてください。(配送を依頼された方の御札は順にお送りいたします)
- ③ 滝行 一月十二日(日)、十九日(日) 午前七時より 塩川滝にて
- ④ 本年の修二会(お水取り)に大仏住職が参籠いたします。(二月二十日より)皆様に変わり誠心誠意懺悔してまいります。